

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.86 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2022年7月2日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

環境講演会 (5月22日)

「冬鳥のジョウビタキ、夏場に繁殖」

宝田延彦

ジョウビタキはスズメくらいの大きさ(14cm)の鳥で、杭の上などに止まって頭と尻尾を上下に振る。地鳴きはヒッヒッヒッカッカッと鳴くが、囀りはよく通る声で複雑に鳴く。渡り鳥で、日本へは10月頃来て翌年の3～4月頃繁殖地に帰っていく冬鳥とされている。繁殖地はチベット南東部、中国西部、モンゴル、中国東北部、ロシアバイカル湖からアムール流域、沿海地方、朝鮮半島などである。ジョウビタキの繁殖行動日数は造巢に3～4日、産卵5～6日(一日一個ずつ生む)、抱卵13日、育雛14日で、巢造りから巢立ちまで35日くらいかかる。

日本で繁殖が初めて確認されたのは1983年北海道の上士幌町糠平で、その後しばらく確認されなかった。2010年に長野県富士見町の富士見高原で本州初確認とされ以後長野県内の各地(上高地・車山高原・霧ヶ峰・八ヶ岳等)で確認されるようになった。

高山市では2014年5月に大雄寺下や錦町での観察情報が寄せられ、私は6月8日に山王公園近くの住宅地で初めて囀っているのを観察した。その後曙町、日の出町など東部市街地でも観察され、日本野鳥の会岐阜飛騨ブロックで調査したところ7か所の縄張りが確認されたものの繁殖兆候は見られなかった。7月23日にはなくなった。

2015年5月には三福寺町東山台や守ヶ丘町

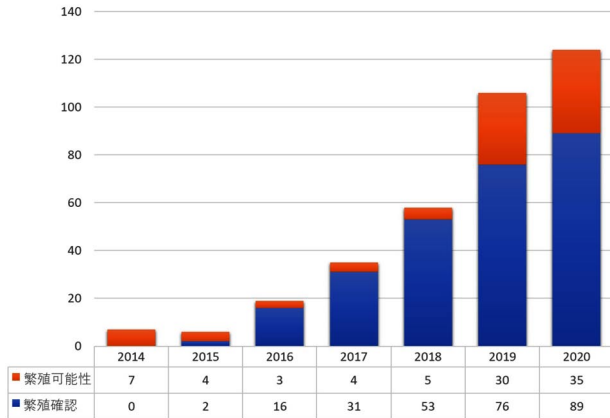


で囀りが聞かれ6月に入ると宗猷寺町、日の出町で営巣や雛の巣立ちが見られた。この年曙町や錦町、北山でも姿が観察された。7月15日にはなくなった。

2016年には繁殖箇所が16か所確認され2017年には31か所に増えた。また下呂市でも1番(つがい)が3回繁殖しているという情報も寄せられた。また乗鞍の畳平で、建物に出入りするのが観察されている。更に2018年には繁殖箇所が53か所に増え、囀り箇所も国府町三川や下切町など範囲を広げ80か所で確認された。繁殖地域は東西6km南北5kmへと広がった。この年から個体識別用のカラーリングを装着する標識調査を行ったところ、一番が年3回の繁殖が確認された。

2019年には前年にカラーリングをつけた番が前年と同じ年3回繁殖していることも確認された。又清見町の三日町でも繁殖が確認され、この年は76か所で繁殖が確認された。下一之

2014～2020



町など商業地域でも囀りが確認され、石浦町・漆垣内町でも囀りが確認されるなど範囲が更に広がった。

2020年には89か所と年々繁殖確認が増加してきた。2021年には古川町上気多、国府町広瀬で繁殖確認された。これまでに久々野町山梨、清見町牧ヶ洞、下呂市小坂町、可児市兼山、岐阜長良、丹生川町大萱で繁殖期に姿が見られている。2020年での推定番数は74となり、調査を始めて2020年までに確認された繁殖箇所は267となった。一番早く囀ったのは2019年の2月25日。巣立ちは2018年4月28日が一番早く、一番遅いのは2020年の8月20日である。1番が3年連続年3回の複数回繁殖が見られ、雌は3年間の生存確認がされており、雄は今年も確認され5年生存、6年目に入っている。

2018年からこれまでに9か所41羽にリングをつけた。標識調査を行い分かったことは、成鳥の繁殖回数が2018年3回、2019年3回、2020年4回（1回は失敗）、2021年はリングをつけた雄とリング無しの雌が番になり2回繁殖した。又個体移動も確認できたが、最長距離移動として2019年6月に日の出町でリングをつけたヒナが翌年3月に各務ヶ原市鵜沼で観察された。約90kmも移動していたことになる。今までリング個体が翌年帰ってきた記録はあったが、他地域への移動記録がなかったので今回が初記録となる。2019年5月に装着した雄1個体が2020年と2021年に市内に帰ってきたのを確認した。また2019



年5月に別の場所で装着した雌個体が2021年に市内で繁殖したのも確認した。冬期に見られるジョウビタキではリング個体は観察されていない。このようにカラーリングをつけることによって縄張りや番の様子、出生地や行動の様子などを知ることが出来る。そんな中で2020年にはリングを着けた雌に着いていない雄がアプローチしたが相手にされず、その後雌は前年まで2年間共に繁殖をした雄と番になったという感動的な出来事があった。

ジョウビタキの巣は標高500m位の比較的高い地域で確認されるが、奈良県では400mの所でも確認されている。最も高いところは乗鞍の畳平(2,700m)である。巣を架ける場所はガレージや換気扇フード等の人工構造物に作られ、位置は平均して2mくらいの高さの所である。営巣環境は森や林に隣接した住宅地などが多い。高山市では町の中でも囀りや営巣が確認されている。又北海道の大雪山系では林の中や岩場での営巣行動が観察されているが、自然物

高山市民時報

(第3種郵便物認可)

渡り鳥・ジョウビタキが市内で繁殖 一昨年は89か所…宝田さんが調査報告

チベットや中国などで繁殖し、日本へは越冬で訪れる渡り鳥のジョウビタキ。その繁殖が近年夏の高山市内で数多く確認されていることが22日に市民文化会館で開かれた「環境講演会」で報告され、市民ら約40人が聴講した(左下写真)。

これは乗鞍岳と飛騨の自然を考える会(飯田洋会長)主催、日本野鳥の会岐阜・飛騨ブロック会員の宝田延彦さん(天満町6・66)がこれまでの調査結果を発表したもので、宝田さんによると、市内での繁殖は平成27年には2か所で初めて確認。翌年は16か所、さらに翌年

また、成鳥のつがいやひなに足環を着けた追跡調査では、同じつがいも3年連続で年3回繁殖していることなども明らかになった。市内での繁殖理由は分かっていないが、宝田さんは「7月の住宅地ではスズメより多いと感じるほど。もはや冬鳥とは呼べないので」とまとめた。

は31か所と年々増え続け、一昨年には89か所にも上った。いずれも林に近い住宅地のガレージや換気扇フードなどの人工物に営巣していたという。

での営巣は確認されていない。

一年を通してみると2月～3月頃から囀りが始まり、3月～8月に繁殖する。7月頃になるとスズメより多いのではないと思われるほど良く見られる。だが9月にはほとんど見られなくなり、10月中旬に渡ってきた個体が翌

年2月頃まで観察されるが数は少ない。このように高山市でのジョウビタキは冬鳥というより『留鳥』となっている。

今年新たに丹生川町千光寺、大萱、下呂市小坂町で繁殖、平湯温泉街、一之宮町、久々野町ではさえずりが観察された。

自然談話室 (5月27日)

「飛騨地方で記録された蝶類」

鈴木俊文

5月27日(金)に、鈴木俊文さんによる自然談話室が行われました。鈴木さんは長年蝶類の観察や記録に取り組まれその集大成とも言うべき「飛騨地方で記録された蝶類」を2020年10月に発刊されました。今回はそれを記念しての談話室でした。

当日は多くの方が来場し、鈴木さんが撮影された蝶類の写真を一枚一枚スライド上映し解説をされるのを、熱心に聴講して下さいました。

今回鈴木さんが提供して下さいった蝶の写真は、会報が残念ながらモノクロ印刷のため鮮やかな色をご覧いただけません。是非当会のホームページ (<http://iidalaw.net/kuragane.html>) で素敵な蝶の色を楽しんで下さい。



キベリタテハ



キバネセセリ



テングチョウ



エゾミドリシジミ



オオムラサキ



スミナガシ



メスアカムラサキ



ツバメシジミ



クモマベニヒカゲ

自然観察会 (6月5日)

雷鳥観察会に参加して

平澤千絵

今回、私達は初めて雷鳥観察会に参加させて頂きました。きっかけは清見町大谷のギフチョウの観察を一緒に見学させていただいたことです。5/27にあったギフチョウのお話会に参加して、自然のことをもっと学んでみたいと思い、松崎さんに教えて頂いて、乗鞍岳の自然を考える会に家族で入会させて頂きました。

乗鞍岳に登るのは初めてでした。私達もですが、5歳と7歳の娘と五年生のお友達は雷鳥を見るのを楽しみにしていました。バスに乗って昼平に行くまでの間に一羽の雷鳥が飛び立つ姿を見ることができてそれは大興奮でした。

昼平に到着すると、雪がまだまだいっぱいあるし、思った以上の寒さにびっくりしました。

子供たちは雷鳥のお話しよりもずんずんずんずんと張り切って登って行って、逞しさを感じました(笑)

下の娘と私はゆっくり先生のお話を聞きなが

ら登りました。参加者の皆さんは優しく声をかけてくださったり、双眼鏡を忘れてしまいましたが貸してくださり、岩の上にいる雷鳥を初めて見ることができ感動しました。

解説やお話しもとてもわかりやすく、雷鳥を見ることが目的ではなく、糞や痕跡を見ることが大切なこと、雷鳥は如何に希少な生き物なのかを学ばせて頂きました。乗鞍岳は岐阜県と長野県の境にありいろいろな問題もあること



ライチョウが砂浴びした跡

も知り、学ばせて頂きました。

この会の皆様は雷鳥だけではなく、ホシガラスやイワツバメや小さな花や小さな雪にいる虫など、自然の成り立ちに興味深く深く学んでおられて凄いなと思いました。私も自然がさらに好きになり学んでみたいと思うようになりました。こうした自然を愛する方が一人でも増えて、希少な雷鳥をはじめ、乗鞍岳の豊かな生き物や植物が守られてほしいと思います。乗鞍岳の景色は最高に素晴らしく、子供たちもとても良い経験をさせて頂き、雷鳥が大好きになり、お土産に買った雷鳥のぬいぐるみをいつも大切にしています(笑)

乗鞍岳に来て本当に良かったなど、心が洗われた気持ちになることができました。

本当にありがとうございました。

平澤聡、千絵、ことは、めい



シンポジウム

御嶽山の価値と未来

～国立・国定公園に向けて～

6月18日長野県木曾町の開田高原にある開田中学校体育館でシンポジウム「御嶽山の価値と未来～国立・国定公園にむけて～」が開かれました。

6月14日には環境省が国定公園の新規指定候補地の一つに御嶽山(3067m)を選定し、中央環境審議会自然公園小委員会に報告したとの報道があり、具体的な動きが見えてきてタイムリーなシンポジウムとなりました。

主催者の日本自然保護協会会長の亀山氏、木曾町長の原氏の挨拶に続き、中山郁氏(皇学館



第 8355号

令和4年6月20日(月)

(昭和23年6月29日第3種郵便物認可)



御嶽山の国定公園指定は令和12年を目標
シンポジウム開催…小野木さんらに対談
国定公園の候補地に決まった岐阜、長野県境の「御嶽山」。その在り方を考えるシンポジウムが18日に長野県木曾町で開かれ、関係者が指定に向けて意見を交わした。
対談には、飛騨高山ふるさとを歩こう会の小野木三郎会長や、環境省国立公園課の熊倉基之課長らが参加した(左写真)。
小野木会長は候補地になったことを喜び「御嶽山は山を学ぶのに素晴らしい舞台。自然を大切に

しつつ、最大限利用すべき」と主張。「横綱級の価値がある。ライチョウの生息や植生からして、一続きに中部山岳国立公園とするのが理想的だ」と持論を語った。
熊倉課長は、決定までの過程に触れ「具体的な時期は決まっていないが、令和12年を目標に早く進めたい」と説明。「自然と融合したスピリチュアルな文化がある。日本ならではの大切な資源で、海外からの評価が高い」との見方を示した。
催しは同町と同県王滝村、日本自然保護協会(東京都)の共催。約100人が集まった。

高山市民時報記事



大学教授)の「日本の山岳信仰と御嶽の宗教文化」と題しての基調講演が行われました。続けて「御嶽山の国立・国定公園への昇格に向けて」をテーマにパネルディスカッション(熊倉基之・環境省、稲垣康・木曾町町民、小野木三郎の3氏が話題提供)が行われました。

当日は乗鞍岳と飛騨の自然を考える会の会員やふるさとを歩こう会の会員、高山市からは市長をはじめ関係部局の職員、朝日・高根の支所長が参加しました。又、下呂市の市長や、岐阜県の担当者も参加していました。

今回のシンポジウムは長野県で開催されましたが、県内では8月に下呂市で、10月には高山市でも自前のシンポジウムを開催しようと活動をはじめました。具体的な事はまだこれから詰めていく段階です。あまり時間がないので早急に組織固めなどから始めなければなりません。

今後のスケジュール

★水生昆虫調査 8月21日(日)

集合時間：午前8時

集合場所：市民プール駐車場(赤保木)

服装等：濡れても良い服装、水の中を歩ける靴かサンダル、タオル、帽子

※今回は九頭竜川で活動しておられるサクラマスレストレーション代表の安田龍司さんをお招きして行います。川の環境がどのような状態になっているかを水生昆虫を通して学んでいきます。安田さんたちの活動については<http://sakuramasu-r.org/?pid=1>をご覧ください。

★アサギマダラマーキング会

(チャオ御嶽スキー場跡地)

9月4日(日)(予備日11日)

集合時間：午前9時

集合場所：道の駅ひだ朝日村(集合後移動)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、油性フェルトペン(黒・細書き)、捕虫網(貸し出しも有り)

服装等：軽快な服と靴、日除け対策(帽子等)

★里山こみちハイク 10月16日(日)

(今回は岩滝地区の岩井城趾、石仏ほか)

集合時間：午前9時

集合場所：丹生川支所駐車場(集合後移動)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、筆記具、その他

服装等：軽快な服と靴、帽子

■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人2,000円 家族3,000円 団体5,000円

あなたの知人、友人に入会をおすすめください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第86号(夏号) 2022年7月2日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL：0577-32-7206・FAX：0577-32-7207

下記URLのページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/kuragane.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：松崎 茂

E-mail：ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp TEL：0577-34-4703

表紙写真提供：小池 潜 印刷：山都印刷